



ひなどり

園だより 11月号
令和元年10月31日
新潟市立新津第三幼稚園



製作している過程も、みんなは輝いている

作品展が間近になりました。遊戯室や保育室では、子どもたちが真剣な表情で製作活動をしています。セロハンテープの使い方などを学び、『自分人形』を作っている年少組。個性的な虫を、箱や包装紙などで表現し、『もも組ジャングル』を作っている年中組。素敵な『あやめタウン』を目指し、それぞれの作品を丹念に作っている年長組。年齢ごとの成長の様子が、見事に表れています。

当たり前ですが、作品展当日には完成品が並んでいます。それ自体とても華やかなのですが、これらの製作過程を普段垣間見ていると、実に楽しい時間がそこに流れていることに気がきます。

製作している途中、子どもたちの傍らにいと、多くの子どもが自分の世界を語り始めてくれます。「これは何？」などと聞かなくても、ただ待っているだけで自然に話してくれるのです。「これはねえ、〇〇なんだよ」と。作っていること自体が、楽しいのでしょう。

私自身は、残念ながらあまり美術のセンスはありません。小学校で担任をしていたときは、図工指導の難しさをヒシヒシと感じたものです。良かれと思いき口を出しすぎると、できあがった頃には、子どもらしさがなくなってしまいます。逆に、好きなようにさせていると、子どもによっては雑に仕上がってしまうこともありました。

先日、第三小学校で図工指導の得意な先生にうかがってみました。すると、意外な答えが返ってきました。「最後まで、子どもが楽しいなあとやってやるのが大切なのでは」と。そうなのです。誰でも、させられている活動では、活動自体を楽しむことはできません。

少し先ではありますが、小学校学習指導要領では、図工の造形活動を以下の二つとしています。

- ①「造形遊び」…材料やその形や色などに働きかけることから始まる側面
- ②「絵や立体、工作に表す」…自分の表したいことを基に、これを実現していこうとする側面

小学生であっても「(造形)遊び」を大切にしています。そして、この遊びは過程そのものです。製作過程を少しでも感じていただけるよう、「製作風景のスライドショー」も当日行います。

どうぞ11/2(土)の作品展では、ゆっくりとお子さんの作品に思いを馳せ、たつぷりと話を聞いてあげてください。楽しく製作した過程に耳を傾けていると、とても幸せな気持ちになれます。

